

渋谷区立
松濤美術館

特別展
鍋 島

特別陳列
伊藤若冲

サロン・ミューゼ
渋谷区 在住作家の作品

会期＝昭和56年12月2日(水)－昭和57年1月24日(日)

江戸時代を通じて佐賀県の有田町中心に展開した伊万里焼、柿右衛門焼、鍋島藩窯の染付、青磁、赤絵などの磁業はわが国陶磁史上きわめて大きな存在で、わが国第一の製陶地として活躍をつづけた。それらは初期には互いに影響しあって発展したが、赤絵がさかんに焼造されるようになった寛文から元禄にかけて、それぞれ特色のある作風を示すようになった。なかでも鍋島焼は藩窯として経営されたので、他の民窯とちがう独特の作風をもつ技術の粋をつくした磁器を焼造した。とくにその色絵は精緻をきわめ、中国明清の官窯に比肩するとも言われる。

鍋島藩窯は有田の岩谷川内で寛永五年（1628）に始まると伝えられる。寛文年中に柿右衛門窯にあった南川原、さらに延宝三年（1675）大川内山の二本柳に移った。今日見る鍋島焼の大半は大川内山で焼造されたもので、ここで鍋島焼は完成した。岩谷川内時代の作風は初期伊万里焼の染付、青磁と同類と考えられるが、南川原時代には、後に完成する鍋島様式の先駆をなすものが焼造され、後期にはかなりの優品が造られた。南川原以前の作品を古鍋島または前期鍋島、大川内山時代の完成期の作品を盛期鍋島、江戸後期文化年間以後の衰退期の作品を後期鍋島と呼んでいる。

今日声価の高い色鍋島、染付、青磁染付の鍋島焼のほとんどは、大川内山の幽境で技術の漏洩を防ぐ厳格な組織のもとで焼造された。

その作品は販売品でなく、藩の御用品、幕府や諸大名への贈答品、またはその注文品に限られていた。元禄年間には染付、青磁、色絵ともに完璧な技術を示し完成していた。その多数を占める代表的な品種は、木盃形と呼ばれる高台の高い独特の器形の円形の皿で、口径三寸、五寸、七寸、一尺の種類がある。花瓶、壺、香炉、向付などは少ない。その文様にも大きな特色があり、寛文から元禄ごろに江戸や京阪で刊行された小袖雛形本や図式本に取材したり、絵手本稽古帳によりながら、器形に調和した独特の構図にまとめている。吉祥文、幾何学文、有職文などの図案的なものと、山水草花の絵画的なものに分けられ多種多様である。皿の高台には櫛歯か、カタバミ、または七宝などの連続文を染付でめぐらし、裏面（外側）には七宝結文や牡丹の折枝などを三方割りに染付であらわすのをふつうとしている。色絵はすべて染付併用の染錦手で、他に青磁と染付併用のもの、青磁色絵もの、青磁と染付鏤絵併用のものなどがある。

伊藤若冲（1716～1800）は、江戸時代の後期に京都で活躍した画家です。もとは青物問屋（八百屋）の主人でしたが、絵をかくことが何よりも好きで、数え年で40歳になると家を弟に譲り、それ以後85歳で亡くなるまで、作画三昧の心豊かな後半生を送ったものです。

絵は、はじめ、当時の絵画界の権威的存在であった狩野派に学びましたが、やがてその形式主義を不満としてそこから離れ、みずから工夫して、古画の研究と写生の実践に並々でない努力を重ねました。その結果、写実を基礎に置きつつ一種幻想的な動植物の姿を描き出す、異色の花鳥画家に大成したのです。

今回ここに集めた作品は、近年新たに発見されたものばかりで、いずれも東京では初公開の逸品ぞろいです。主題も技法もこの上なく独創的で非凡な若冲芸術の真価に接して、いままでにない新しい美の世界をのぞき見ていただけるものと信じています。

出品目録

前期＝12月2日(水)―12月27日(日)

後期＝1月5日(火)―1月24日(日)

1	禽獸草花図屏風	右隻＝前期、左隻＝後期
2	白象群獸図	前期
3	猿猴摘桃図	後期
4	白鶴図	前期
5	出山釈迦図	後期
6	蝦 図	前期
7	樹下雄鶏図	前期
8	里芋図	後期
9	群鶏図	後期

大久保 泰

明治38年(1905) 愛知県豊橋市に生まれる
昭和3年(1928) 早稲田大学商学部卒業 野口弥太郎・
児島善三郎に学ぶ
現在=独立美術協会会員

《パリの眺め(ペールビルより)》1968年 F30号

大森啓助

明治31年(1898) 兵庫県神戸市に生まれる
大正9年(1920) 関西学院高等部卒業 川端画学校で
学ぶ
現在=国画会会員

《ジャーマン アイリス》1978年 F30号

清原啓一

昭和2年(1927) 富山県砺波市に生まれる
昭和27年(1952) 明治大学卒業 辻永に学ぶ
現在=光風会会員 日展会員

《マジョリカのバラ》1981年 F20号

児玉幸雄

大正5年(1916) 大阪市に生まれる
昭和14年(1939) 関西学院大学卒業
現在=二紀会会員

《パリ風景》1981年 F30号

近岡善次郎

大正3年(1914) 山形県新庄市に生まれる
昭和8年(1933) 文化学院美術部卒業 石井柏亭・有
島生馬・山下新太郎に学ぶ
現在=一水会会員

《みちのく湯宿》1980年 F20号

堀内正和

明治44年(1911) 京都市に生まれる
昭和4年(1929) 東京高等工芸学校彫刻部を中退、二
科会の研究所(番衆技塾)に入り、藤川勇造に師事する

《正四面体をぬきとった立方体》1975年 高さ40cm

村田勝四郎

明治34年(1901) 大阪市に生まれる
昭和1年(1926) 東京美術学校彫刻科卒業 北村西望
に師事、ひきつづき研究科に入り朝倉文夫に師事する
現在=新制作協会会員

《頬づえ》1962年 高さ43cm

森 芳雄

明治41年(1908) 東京に生まれる
大正15年(1926) 慶応義塾普通部修了。1930年協会洋画
研究所に入り、中山巍の指導を受ける
現在=主体美術協会会員

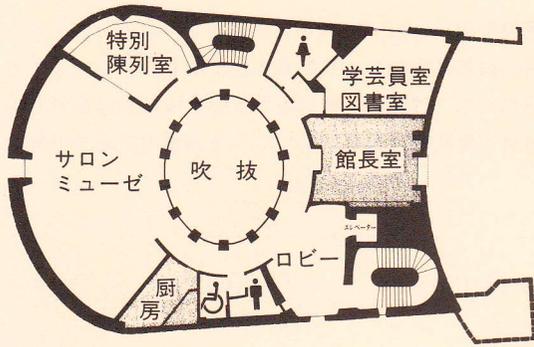
《うづくまる》1980年 F20号

脇田愛二郎

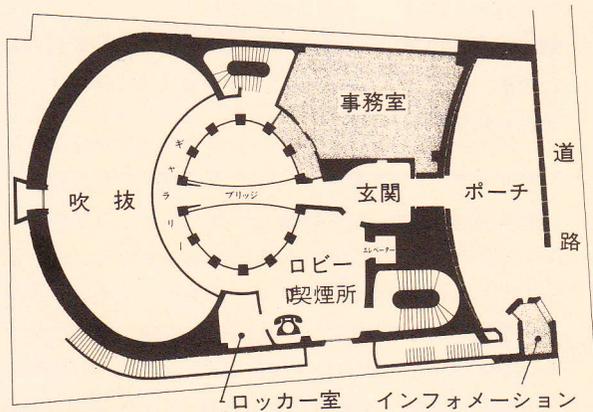
昭和17年(1942) 東京に生まれる
昭和39年(1964) 武蔵野美術大学卒業
昭和40年(1965) ニューヨーク、ブルックリン・アー
ト・ミュージアムに学ぶ
無所属

《アンタイトル》1979年 高さ154cm

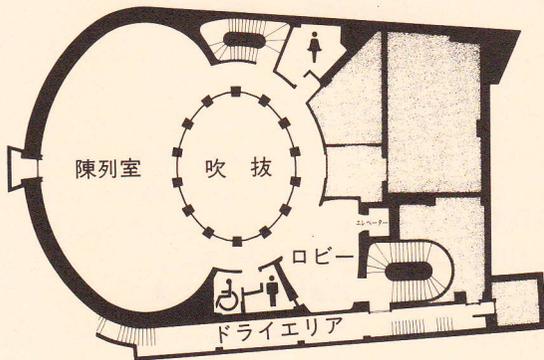
松濤美術館・平面図



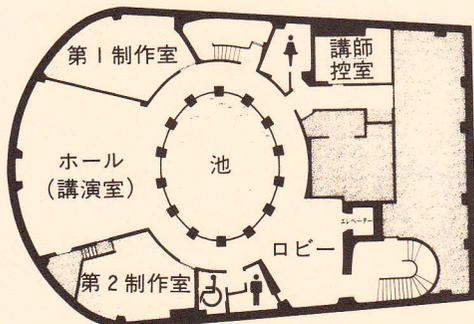
2F=2階



1F=1階



B1=地下1階



B2=地下2階

開館時間 午前9時～午後5時（ただし、入館は4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（ただし、第2週のみ日曜日）
祝日の翌日及び年末年始（12月29日～1月3日）

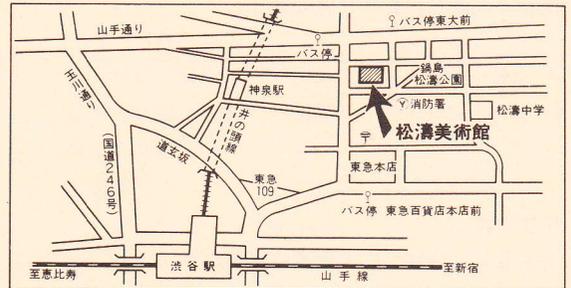
入館料

	個人	団体(20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

お願い

- 陳列品には手を触れないでください。
- 館内では万年筆、筆などを使用しないでください。
- 写真撮影や模写はご遠慮ください。
- 手荷物は1階ロビーのロッカー（無料）にお預けください。
- 動物や危険物は持ち込まないでください。
- 煙草は1階ロビー以外ではご遠慮ください。
- 下駄ばきの方は受付窓口にお申し出になり、スリッパにおはきかえください。
- 他の入館者の迷惑にならないように静かにご覧ください。

案内図



交通案内

- 山手線 渋谷駅下車——徒歩10分
- 井の頭線 神泉駅下車——徒歩5分
- 東急バス（渋谷駅⇔幡ヶ谷折返し所）東大前下車——徒歩2分
- 東急バス（初台駅→渋谷駅）東急百貨店本店前下車——徒歩5分
- 京王バス都営バス（阿佐ヶ谷駅→渋谷駅）東急百貨店本店前下車 徒歩5分

※駐車場は、当館、付近にもございません。

渋谷区立松濤美術館

〒150 東京都渋谷区松濤二丁目14番14号

電話(03)465-9421